

〔 特 集 〕

知っておきたい子どもの痛み ～予防法と痛みへのアプローチ～

医療行為に伴う子どもの痛み体験は、痛みの構成成分である感覚に加えて、情動、認知の成分にも影響を与え、痛み体験はそのときだけでは終わらず、注射恐怖症など長期的な影響を及ぼすことが明らかにされ、積極的な痛み予防の必要性とエビデンスのある具体的な方法が報告されています。加えて、痛みで困っている子どもの痛みの適切な評価と対応には、これらの成分に加えて、修飾要因として心理社会的要因、発達要因に関しても、多職種による生物心理社会的アプローチによる丁寧で多面的な情報収集と対応の有用性が明らかにされています。しかし、今日まで医療者の子どもの痛みの過少評価により、日常診療でこれらの方法はまだまだ実践されていません。

本企画では、これらの分野で実践されているエキスパートの執筆者の方々に、読者の皆様に知ってもらいたい子どもの痛みの特徴、背景、そして具体的なかわり方と対応についての最新の情報をわかりやすく解説していただきました。どの特集項目から読まれても、思わずその先を読みたくなる興味深い新事実がたくさん盛り込まれています。本特集との出会いが、子どもの痛みにかかわる皆様の行動変容を引き出し、子どものたくさんの笑顔につながることを願っています。

(春日部市立医療センターペインクリニック内科／加藤 実)

